


ふりがな 氏名	ひらはら ななこ 平原 菜南子	都道府県	福岡県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・西南女学院大学人文学部英語学科 ・カンボジア教育支援プロジェクト「ANAKOT」 			
私のESD活動	私は北九州市のまなびとESDステーションでカンボジア教育支援プロジェクトのリーダーをしていました			
ESD活動を表すキーワード	カンボジア教育支援	カタリバ	学習支援（教育）	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は福岡県北九州市にある「まなびとESDステーション」の“まなびと”として、さまざまな活動に取り組んできた。「まなびとESDステーション」とは、北九州の全10大学と地域社会が連携し、実践活動を通じて将来を担う人材育成に取り組むプロジェクトだ。まちなかでユニークな講座を開催したり、大学生がまちのみなさんとともに地域の課題を解決したり、その活動はまちづくり、未来づくりへとひろがっていく。「まなびとESDステーション」には学生が立ち上げた様々なプロジェクトがある。私は、その中のひとつ、「カンボジア教育支援プロジェクト」のリーダーをしていた。このプロジェクトは、私たちの代から始めたプロジェクトで、カンボジアに教科書や絵本などの教育支援となる物資を送るプロジェクトである。主に募金活動や、大学の生協でカンボジア産の胡椒を使ったクッキー販売、大学祭や地域の祭りなどで出店等を行っている。努力の甲斐あって、2014年度では104,697円もの支援金を集め、カンボジアの小学校へ教科書を送ることができた。また、2015年3月には実際にカンボジアへ1週間滞在し、現地の村の生活を体験したり、教科書を支援している学校へ訪問をしたりした。

また、この活動以外にも、北九州地域の学校で授業のアシスタントを行ったり、ひまわり学習という放課後の授業外プログラムのスタッフとして参加したりしている。また、現在全国各地に展開している、高校生心に火を灯す授業「カタリバ」にも、キャストとして積極的に取り組んでいる。私の将来の夢は“中学校の英語教師”であるため、まなびとESDステーションで行ったこのような活動は大学生活の中でも最も貴重な経験である。

・「ANAKOT」カンボジア教育支援プロジェクト http://manabito.kitakyu-u.ac.jp/report/project_11

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

自分は、まだ学習指導要領におけるESDの在り方などを十分理解できていないと考える。今後はさらにESDの意義を考え、その知識を身に着けたい。しかし、身に着けるだけでは実行できたとは言えないので、実際に自分が教壇に立つことができたときに、知識や経験を多いに活用し、生徒の可能性を最大限に引き出すことを目標としている。その時に活用したいものは、大学時代に培ったまなびとESDステーションでの経験である。カンボジア教育支援プロジェクトで行ってきた活動を再確認し、また今後の活動についても考えていきたい。今までは「支援」を重視した活動がメインであったが、それではこちらの一方的な自己満足であり、持続可能な発展とはかけ離れている。したがって今後は実際に現地へ赴き環境を整える「教育」をメインに行って行きたいと考える。「教育」といっても、ただ一方的に与えるのではなく、「現地の人々と共に」というのが私の理想だ。